

会員が整備した林道が通る「青年の山」



内板を設置しました。これらの施設を利用して、会員家族や地元住民との親睦交流を続けたことで、平成13年に7人が新会員となり、同時に町から新たな森林42haを取得し、青年の山も総面積88haとなりました。新会員も手作業で山づくりを始め、グループ発足20年目



計画的な森林管理を継続

にして地域活性化を促す大きな成果となって根づいてきました。
②後世に「青年の山」を継承
林業普及指導員から技術指導を受け、各自が所有森林の経営計画を樹立するなど、生産活動を明確にした森林管理を行っています。また、林業先進地の視察など、森林再生に向けた努力の結果、30年前の牧場跡地は、今や町を代表する立派な森林50haに蘇りました。

家族や孫と山作業に来る会員もおり、親子、孫の三世代の山づくりが継承されています。
さらに、子どもたちに郷土を愛し、森林を育てる心を育むため、青年の山を活用して、小学生の親子を対象に植樹や除伐、枝打ち作業等の森林教室も開催しています。
■モデルケースとして地域を牽引
平成18年より、枝幸町では大規模町営牧場跡地約700haを住民に開放し、住民自らの手で森林に復元する計画を進めています。この計画の基本には、30年前、地域の誰かが手をつけなかった牧場跡地を森林に蘇らせた当グループの取り組みがモデルとなっています。現在グループ員も50〜70歳代となり、指導林家、森林組合長、町議など地域を担う重要なポストに就



青年の山をフィールドに、子どもたちへ植樹指導

いています。町有林約5000haの維持管理についてもアドバイザー的役割を担うなど、グループ活動で培った技術・知識が役立っています。
(北海道宗谷森づくりセンター
専門普及指導員 大槻 亨)



ログハウス「青山荘」を建てるなど魅力的な活動で新メンバーも加入

WE LOVE forest! 林業研究グループ

歌登青年の山グループ

北海道枝幸郡枝幸町歌登

会員数 17名
設立年月日 平成2年3月

■素人から活動を続けて30年
北海道宗谷管内歌登町(平成18年に合併。現・枝幸町)は、昭和39年頃、町営牧場を造成、酪農業の拡大に従い大規模草地の造成を行いました。その後、町営牧場は使われなくなり、町では約700haの跡地を住民の手で森林に再生することで、「森林の町づくり」のシンボルと位置づけましたが、それを担う人は簡単には現れませんでした。
昭和53年、山づくりには全くの素人である「商工会青年部」の10人が「森林を蘇らせる」を合い言葉に立ち上がり、翌年、町から46haの牧場跡地を購入。共同作業により、地帯え、植林、下刈り作業を繰り返し、約35haにトドマツやアカエゾマツ等、約10万本余りを植林し、その山を「青年の山」と命名しました。
「信頼と協力」を旗印に再生に挑み、それから10年。仲間から「本格的に林業技術や知識を身につけよう」との気運が高まりました。そこで平成2年3月に「歌登町青年の山グループ」を発足、本格的にグループ活動を始動し、北海道林業グループ協議会にも加盟しました。

■将来を見据えた地域活動
グループでは、収入が得られる林業生産活動に結びつけることを目指し、以下2つをグループ活動の目標に掲げています。
①愛林郷土の町づくりのシンボルとして根づかせる
地域産業に貢献するため、基幹林道2路線(1万1000m)を整備。将来、この林道を使って作業を効率的に行うことで収入をアップさせたり、地域住民も森林を見学できるなど、地域に開かれた森林管理が可能となりました。
また、平成10年にログハウス「青山荘」を建設、13年には簡易水洗トイレ、野外ベンチを設置、翌年には展望台「四阿」建設と案



30年前の牧場跡地が見事な森林に